

◆ 今週のコメント

- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は6.16(234例)です。第3週(1月16日～22日)に11.05とピークとなった後、第5週(1月30日～2月5日)以降、横ばい状態が続いています。京都市衛生環境研究所で平成24年に受け付けた感染性胃腸炎の検体から、ノロウイルスGⅡ型が28件、ノロウイルスGⅠ型が1件、アデノウイルス2型が2件、ロタウイルスが2件検出されています。
- ・ マイコプラズマ肺炎の報告が1例あります。全国の定点当たり報告数は0.84で平成23年第49週(12月5日～11日)の1.51をピークに減少していますが、過去10年間の同時期としては高い状態が続いています。

◆ 定点医療機関の追加について

第7週から右京区の1定点が追加され、インフルエンザ定点 65、小児科定点 38となりました。

◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は23.71(1,517例)で、先週(31.70)より減少していますが、依然として高い値となっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

ありません

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点65、小児科定点38、眼科定点10、基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	23.71	1541
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	6.16	234
	② 水痘	1.00	38
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.89	34
	④ 手足口病	0.32	12
	⑤ RSウイルス感染症	0.26	10
	⑤ 突発性発しん	0.26	10
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2
基幹	マイコプラズマ肺炎	1.00	1

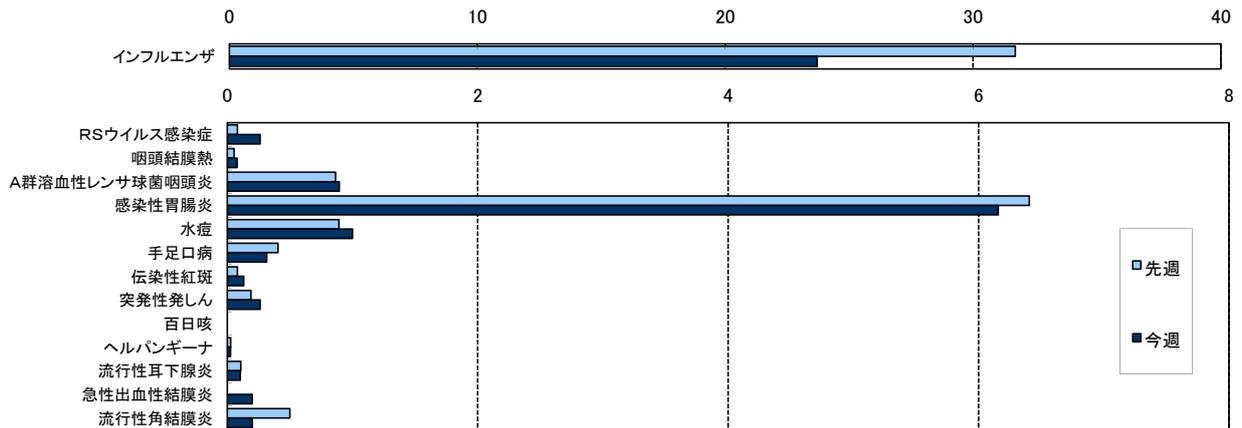
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

(注) 京都市のデータは、平成24年2月23日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

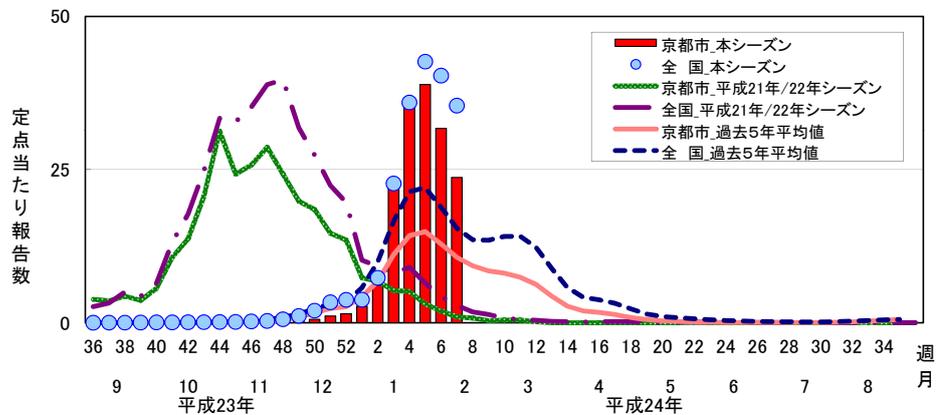
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第7週)と先週(第6週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第3週	1,473
第4週	2,319
第5週	2,489
第6週	2,029
第7週	1,541
累積報告数 (第36週以降)	10,923

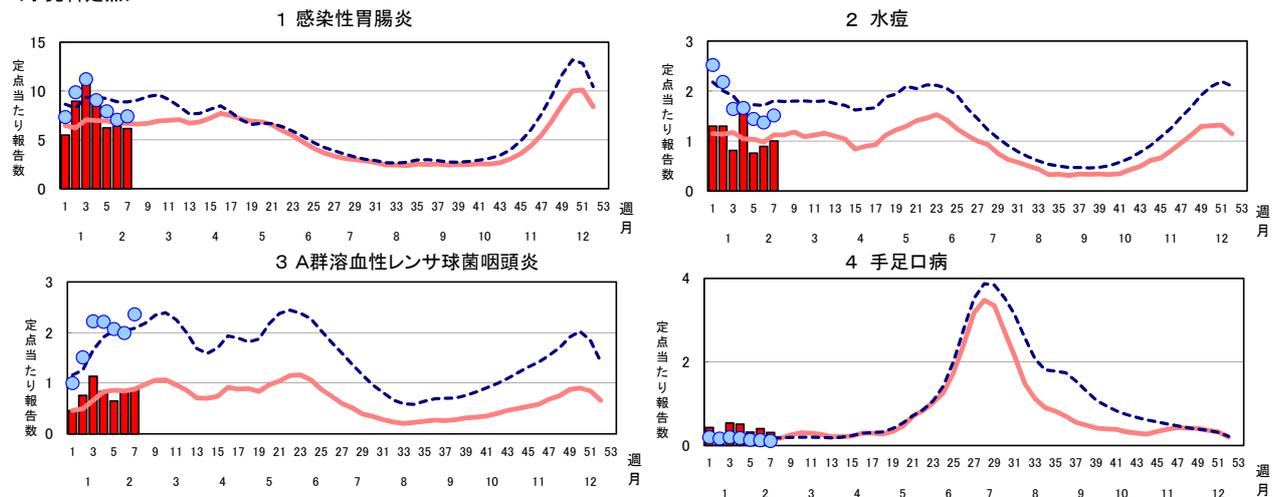


※平成21年/22年シーズンは、新型インフルエンザの発生により、例年と流行傾向が大きく異なるため、別に表記しています。過去5年平均値は、36-52週はH17-H20年及びH22年、1-35週はH18-H21年及びH23年の平均値です。

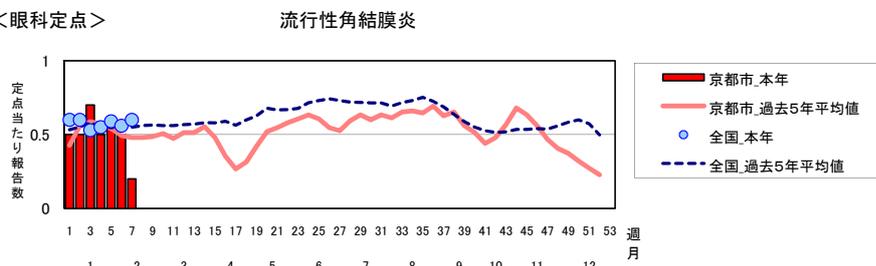
※京都市のインフルエンザ発生状況の詳細を下記に掲載しています。
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000071285.html>

3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>

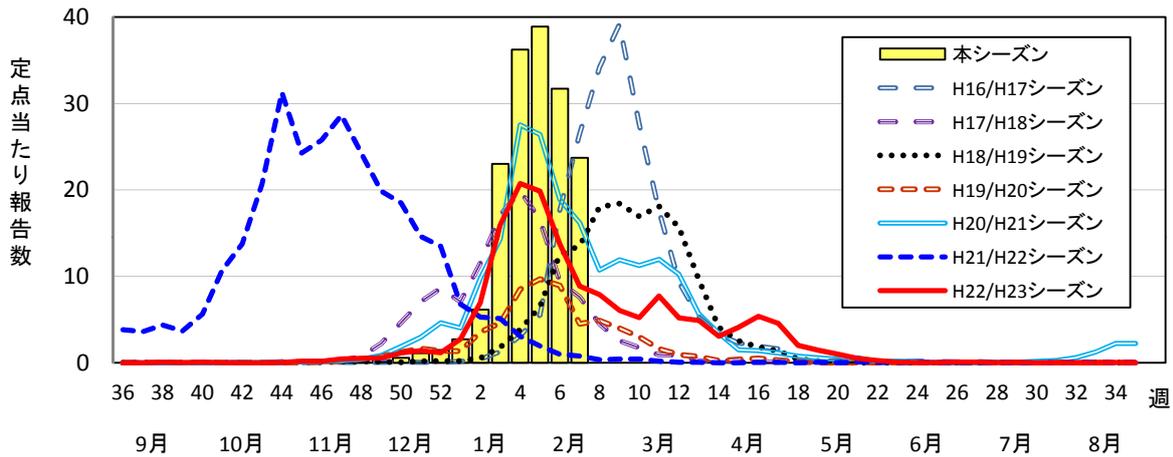


第7週(2月13日～2月19日)トピックス: <インフルエンザ>

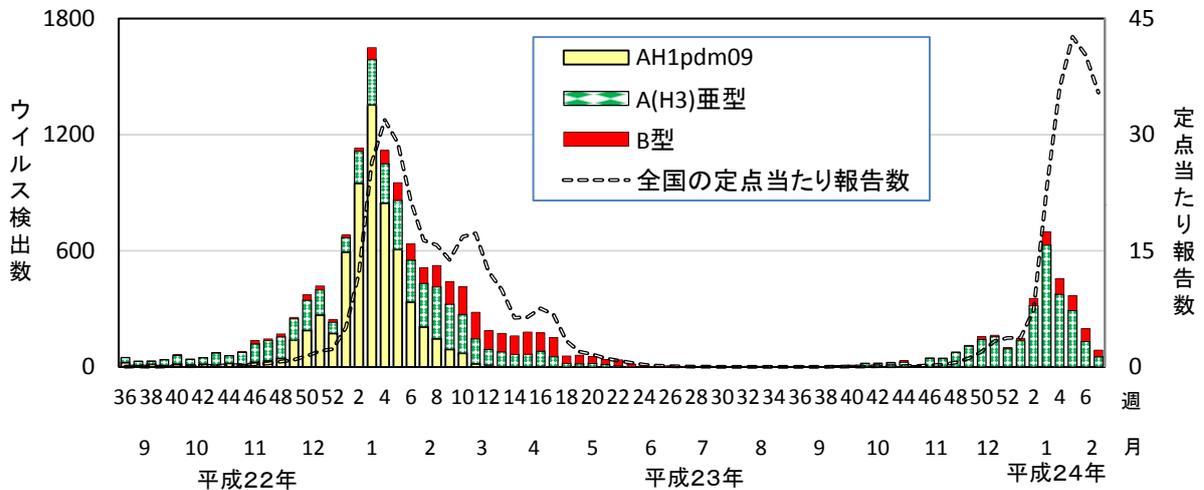
インフルエンザの定点当たり報告数は23.71(1,517例)で、先週(31.70)より減少していますが、依然として高い値となっています。

今シーズン京都市衛生環境研究所で分離、検出されたインフルエンザウイルスは、A(H3)亜型8例、B型1例となっています。全国のインフルエンザウイルス検出状況は、A(H3)亜型が主流でしたが、B型の割合が第5週(1月30日～2月5日)に20%を超え、第7週には38.6%に増加しています。今後の動向に御注意ください。(平成24年2月28日現在)

京都市の定点当たり報告数の推移(平成16/17年～平成23/24年シーズン)



全国のインフルエンザウイルス検出数の推移



全国のインフルエンザウイルスの検出割合の推移

